

上御靈社は平安城鞍馬口通の南にあり。祭る神は〔早良親王、伊予親王、藤原夫人、文太夫、橘逸勢、藤原広

嗣、吉備大臣、火雷神〕等の八所御靈なり。朱雀院の御宇天慶二年に鎮め奉る。いにしへ此地は上出雲寺なり、故に出

雲路の御靈ともいふ、例祭は八月十八日。〔中御靈は京極通廬山寺の南にあり。当社の御旅所なり〕○早良親王は光仁帝

第二の皇子なり、延暦四年九月朝廷を傾奉らんと議をめぐらしける、其聞へありければ淡路国に左遷し、回国高瀬に至

り氣絶て薨じ給ふ。怨靈崇をなしければ同十九年七月に崇道天皇の追号を宣下し給ふなり。〔紀伊郡藤森神社と同神なり〕

○伊予親王は崇道天皇の御子なり、平城帝の御時逆心あらはれしかば川原寺において飲食を通ぜず終給へり。○藤原夫

人は崇道天皇の後吉子と号す、伊予親王の御母なり。○文屋宮田丸は承和十年十二月に謀反の企によつて伊豆国へ配流

し卒し給へり。○橘逸勢は右中辨從四位下入居の子なり、嵯峨帝の御時の能書にして本朝三筆の其一人なり。仁明帝の

御宇承和元年七月に謀反の事ありてこれも伊豆国に流罪せられ、九月に死に給へり。○橘広嗣は藤原宇合の第一子な

り、太宰府において反逆ありしかば、大野東人宣旨を蒙り馳向ひて戦けり、広嗣敗北して自刀を以て首を落す、其頸忽

天に昇り空中にして赤鏡となる、見る人ことごとく即死す。豊後国鏡宮、肥前国板櫃明神等此靈をまつれり。○吉備大

臣は右大臣正二位なり、本朝無双の才人。元正天皇の遺唐使なり。唐土にして野馬台の文を読んとするに文議暁しがた

し、時に我朝初瀬の觀世音を心中に念ぜり、其時蜘蛛くだりて糸を引て教ければ容易よめりとかや、天平五年に帰朝し

光仁帝宝龜六年薨じ給へり、年八十二歳。○火雷神は北野天満天神なり。觀音堂の本尊は聖徳太子の作にして聖觀世音

なり、是則出雲寺の本尊といふ。